

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都文京区大塚1-4-1
園名	ソラスト茗荷谷保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

年度初めの製作活動で三原色の絵具を用意すると、子どもたちは興味を持って色を混ぜ始めた。様々な色を次々に混ぜながら、「色が変わっていった」「さっきと違う色になった」と色の変化に驚き、楽しむ姿が見られた。

2. 活動スケジュール

6月～:室内での色水遊び
8月～:色の名称調べ、カラーチャート導入、
9月～:色相環図導入。色相環図作り。
1月～:色水遊びで黒を導入。

ほぼ毎月絵具を使って混色をする製作活動を入れる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

色水遊びがいつでもできる環境を設定し、作った色を飾る場を設ける。
絵具、スポイト、紙皿、ポリ袋、マスキングテープ等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・色水や絵の具で混色をする。
- ・色の名称について調べる。
- ・三原色の関係、色相環図について考える、知る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

赤・青・黄・白の色水を使う色水遊びコーナーを設けた。子どもたちは自由に色を混ぜながら「この色できた」「次はこれとこれを混ぜてみよう」と試行錯誤を繰り返していた。この活動は6月から3月まで継続して行った。

最初は様々な色を実験するように混ぜ、色の変化を楽しむ姿が多く見られたが、次第に「電車の色にしたい」「この色鉛筆の色を作りたい」など、身近な物の色を目指して作ろうとする姿が見られるようになった。保育者は三原色を中心に環境を整え、子どもたちが試しながら色の変化に気付き、感じたことを言葉にできるよう声を掛けながら見守った。

また、作った色を飾る場所を用意すると、子どもたちは自分たちの色を並べて見比べる姿が見られた。色の本やカラーチャートを用意すると、色の本やカラーチャートを用意すると、本の色と見比べながら「これに似ているね」「もう少し入れてみよう」「これって〇〇色なんだ」と量を調整しながら色を作る姿も見られた。また、色の名前や由来にも興味を持つ姿が見られた。

毎月の製作活動でも三原色と白を使えるようにすると、自分で色を作りながら活動する姿が見られた。後半は必ず黒を用意すると、「黒を入れたら暗くなった」「入れすぎて黒になっちゃう」など色の変化に気付き、より多くの色を作ろうとする姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

最初は色を実験的に混ぜ、変化を楽しむ姿が見られていたが、活動を重ねる中で電車や色鉛筆、身につけている物など身近な色を目指して作ろうとする姿と変化していった。

また、「この色はこうやって作ったよ」など、友だち同士で作り方を伝え合う姿が見られ、知識や気づきを共有しながら遊びを進めていく様子が見られた。今回の活動を通して子どもたちは試行錯誤を重ねながら色の作りかたを理解し、少ない色の組み合わせでも様々な色を作ることができることに気付いていった。遊びの中で自ら試し、考え、確かめる経験を重ねることで、子どもたちの探求心や知的探求心が育まれていることを感じた。

また、友だちと考えや気づきを伝え合い、知的探求心を共有しながら遊ぶ経験を重ねることで、他の遊びや活動の中でも発見や情報を共有する姿が見られるようになり、自ら調べたり、確かめたりしようとする姿にも繋がっていった。